

香取遺産

Vol. 69

「旧佐原繭市場の煙突」

まゆ じゅう だん
繭と銃弾



▲弾痕が残る旧繭市場の煙突(伊能忠敬記念館裏)

JR佐原駅前に「まゆシヨツピングセンター」があるのをご存じの人は多いと思います。が、「まゆ」という名前の由来は何でしょうか。

ここにはかつて「下総乾繭販売購買利用組合連合会」の乾繭工場（通称、佐原繭市場）がありました。「まゆ」は、蚕がさなぎになる際に作る繭のことなのです。

養蚕の盛んな香取郡

戦前の千葉県、中でも香取郡は養蚕が比較的盛んな地域でした。千葉県の養蚕業は1880年代後半から発展し、1940年（昭和15）の繭生産量は全国13位となっていました。そのうち、山武・香取・印旛・匝瑳の4郡が主要な生産地で、現在の香取市域の中では、栗源地域や山倉、香西

地区などで養蚕が盛んでした。**乾繭は中の蚕を殺すこと**

香取郡内の養蚕農家で作られた繭の一部は、佐原駅前にある乾繭工場に集められたと思われます。「乾繭」とは、繭を加熱・乾燥させて中の蚕を殺し、長期に保存・輸送できるようにする工程、もしくはそうした繭のことです。こうした乾繭は県内で製糸されることは少なく、主に鉄道によつて長野県諏訪地方などに運ばれ絹糸に加工されていました。

絹を売って武器を買う

諏訪地方には「男軍人、女は工女、糸をひくのも国のため」という歌があります。戦前の日本経済は、養蚕・製糸業を最大の輸出産業とし、絹糸を輸出して得た外貨で機械

や軍事物資を購入する、極端に言えば、絹を売って武器を買うという構造をもっていました。

アメリカ軍による空襲

1945年（昭和20）7月4日、アメリカ軍による佐原空襲があり、乾繭工場も機銃掃射を受けて、高さ37mの煙突にも約100発の銃弾の痕があったそうです。しかし、その後1996年（平成8）に取り壊されるまで、この煙突は佐原駅前のシンボルの存在として建ち続けていました。繭と銃弾という日本近代史の大きな特徴を背負った煙突は、工場解体後その一部が伊能忠敬記念館の裏手に運ばれ、現在も静かに置かれています。問い合わせ

伊能忠敬記念館 ☎(54)1118